



議会図書室からのお知らせ

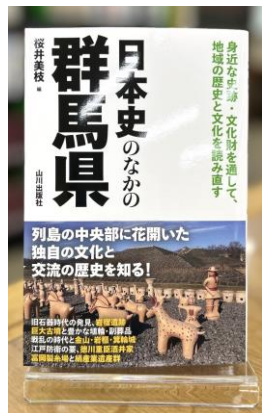


本のタイトルには、出版社の本の紹介のリンクが貼ってあります。
出版社での紹介がないものは貼っていません。

今月の新着図書
R8年8月（一般用）

『日本史のなかの群馬県』

桜井 美枝【編】/山川出版社 (2026/4)



身近な史跡・文化財を通して、群馬県の歴史と文化を読み直します。岩宿遺跡、巨大古墳と豊かな埴輪・副葬品、上野三碑、箕輪城など、郷土群馬に花開いた独自の文化と交流の歴史を知ることのできる1冊。

『本を読めなくなった人たち ～コスパとテキストメディアをめぐる 現在形』

稲田 豊史【著】/中央公論新社 (2026/2)



2022年話題となった書「映画を早送りで観る人たち」続編。本書では「本を読めなくなった人」を取材。「コスパ」「タイパ」を無視できない現代社会の実情をレポートしながら、「テキストメディアと読書の未来」を考える。

『手の言語学』

松田 俊介【著】/左右社 (2026/3)



言語学的に見てみると「日本手話」はこんなに面白い！日本手話を学ぶ言語学者が、日本語や英語と比較しながら、日本手話だからこその特徴、他言語との共通性を浮き彫りにする。楽しく読める言語学エッセイ。

『贅沢と欲望の経営史』

～あなたはなぜ今日もスタバに行ってしまうのか～

坂出 健【著】/光文社 (2026/4)



私たちはなぜ割高でもスタバに行きたくないのか？その秘密は味ではなく、現代資本主義社会という巨大劇場の構造とそこで踊らされる私たちの欲望にあるらしい。世界を回す「ラグジュアリー・ビジネス」の本質に迫る！

『モリナガ・ヨウは土木を描く』

(公社)土木学会・土木学会誌編集委員会【編】
モリナガ・ヨウ【絵】溝渕利明【文】大山顕
【写真】/彰国社 (2025/12)



機関誌「土木学会誌」の表紙と連載を元に書籍化した1冊。緻密なタッチの絵、わかりやすい解説、迫力ある写真で、普段私たちが利用し目になっている「土木構造物」の大事な役割や魅力を紹介。建設中のハッ場ダムの様子も掲載。

『「自転車」はどこに向かうのか ～青切符・違法モペッド・新交通ルール カオスの先にある未来』

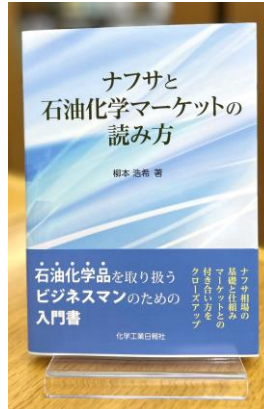
足田 智【著】/旬報社 (2026/4)



2026年4月、自転車青切符が導入された。新ルールと新モビリティが交差し、まさにカオスと化した自転車世界。曲がり角の先に見えるのはどんな景色なのか？自転車ジャーナリストが激変する「自転車世界」を読み解く！

『ナフサと石油化学マーケットの 読み方』

柳本 浩希【著】/化学工業日報社 (2021/3)



最近ニュースで耳にするようになった「ナフサ」。そんなまだ馴染みのないナフサや石油化学品相場の基礎と仕組み、読み方を解説。また価格の歴史を含めた日本国内マーケットの特異性や付き合い方にも触れる。

『ChatGPT&Copilot ～入社1年目の教科書』

リブワークス【著】/技術評論社 (2026/5)



ビジネスパーソンのための実践的なAI活用ガイド。AI初心者から活用中の方まで、幅広く役立てられる。先輩社員と新人の会話から始まるストーリー形式がわかりやすく、専門用語に不慣れでも自然と理解が深められる。

▶「新・群馬総合計画」に関する書籍



新着

県外部有識者 富山 和彦氏著書

『日本経済AI成長戦略』

富山 和彦【著】松尾 豊【監修】/文藝春秋
(2026/1)

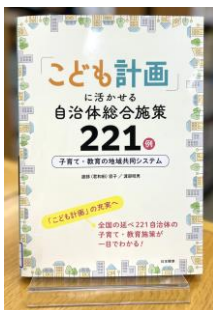


AIでいかに稼ぎ儲けるか？日本の「勝ち筋」はどこにあるのか？「経営」と「AI」の第一人者である富山氏による「AIビジネス」の徹底指南書。人口知能学者松尾教授監修による、富山氏最新著書。

『「こども計画」に活かせる自治体総合施策221例』

～子育て・教育の地域共同システム～

渡部(君和田) 容子・渡部 昭男【著】/日本標準
(2024/12)



全国延べ221自治体の子育て・教育施策が一目でわかる！少子化対策・子育て支援・若者支援などを総合した「こども計画」が求められる今、自治体の政策立案・改訂・充実化に役立つ書。

県外部有識者 富山 和彦氏著書

『ホワイトカラー消滅～私たちは働き方をどう変えるべきか』

富山 和彦【著】/NHK出版 (2024/10)



人手不足はローカル産業で生じ、人余りはグローバル産業で顕著に起こると本書は語る。常識に捉われたホワイトカラーは、生き残る選択肢がなくなるのか？国・組織・個人の抜本的再生を促す提言書。

『増補・改訂版 これからの総合計画～人口減少時代での考え方・つくり方』

一條 義治【著】/イマジン出版 (2020/1)

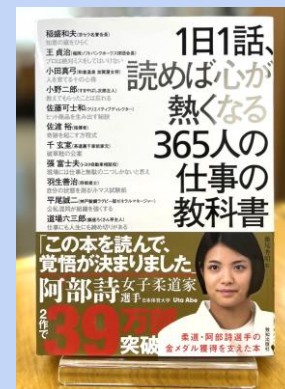


自治体の「総合計画」への取り組み方と「地方版総合戦略」の考え方・取り組み方を、東京都三鷹市の事例からわかりやすく紹介。同市の事例を通じて、他の自治体の総合計画づくりに、課題や論点を提起する。



図書広報委員がおすすめする一冊

『1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書』



【監修】藤尾 秀昭/致知出版社 (2020年11月)



紹介者：清水 大樹委員
公明党・高崎市選出・1期

『1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書』は、私自身、仕事で行き詰まった時、思うように結果が出せなかった時に支えてくれた1冊です。

各界の第一線で活躍するプロフェッショナルの人間学・仕事論が1ページごとに凝縮され、その哲学は読む人に情熱を吹き込んでくれます。

一流の人達の挫折や葛藤、それを乗り越えた覚悟の言葉を、1日1話読むことで、日々刺激を得ることができ、職種や世代を問わず、「なぜ働くのか」「どう生きるべきか」という普遍的な問いへのヒントが詰まっています。

日々のモチベーションを高め、自らの仕事への誇りと情熱を再点火してくれる、一生モノの人生のバイブルです。

次号では、松本 隆志委員におすすめしていただきます！